

2025 年6月2日
株式会社ソラコム

「SORACOM Flux」が、OpenAI および Azure OpenAI の 最新モデル「GPT-4.1」シリーズに対応

高精度モデルから軽量モデルまで、多様な判断処理に対応

株式会社ソラコム(本社:東京都港区、代表取締役社長 玉川憲)は、IoT アプリケーションをローコードで開発できる「SORACOM Flux(ソラコム フラックス)」において、利用できる生成 AI モデルとして、OpenAI および Azure OpenAI の最新モデル「GPT-4.1」シリーズに対応したことをお知らせします。

SORACOM Flux は、IoT システムの自動化を目的とした IoT アプリケーションビルダーです。センサーやカメラなどの IoT データをインプットに、通知システムや生成 AI モデルによる分析を組み合わせ、現場の業務や設備管理を効率化するアプリケーションを、ソフトウェア開発の専門知識がなくてもブラウザ上で構築できることが特長です。現場主導のデジタル化を支援する仕組みとして、製造業や物流業、小売などさまざまな業界で活用が進んでいます。

今回のアップデートにより、Flux では、OpenAI および Azure OpenAI が提供する最新モデル「GPT-4.1」「GPT-4.1-mini」「GPT-4.1-nano」に対応しました。GPT-4.1 は、高精度な自然言語理解と複雑な文脈処理に優れたモデルで、IoT アプリケーションにおける高度な分析や判断に活用できます。加えて、GPT-4.1-mini および GPT-4.1-nano は、応答速度とコスト効率に優れマルチモーダルな処理も可能な軽量モデルで、リアルタイム性が求められるユースケースや、センサーデータのスクリーニングといった定型処理において、コストを抑えながら柔軟に運用できます。

なお、SORACOM Flux では、OpenAI モデルに加え、Google の「Gemini 2.0 Flash」「Gemini 2.0 Flash-Lite」や、Amazon Bedrock 上の「Anthropic Claude 3.7 Sonnet」にも対応しており、複数の最新モデルを用途に応じて使い分けることが可能です。

SORACOM Flux は、お客さまのユースケースからのフィードバックや、最新の生成 AI サービス動向を踏まえて、引き続きアップデートしていきます。

ローコード IoT アプリケーションビルダー SORACOM Flux について

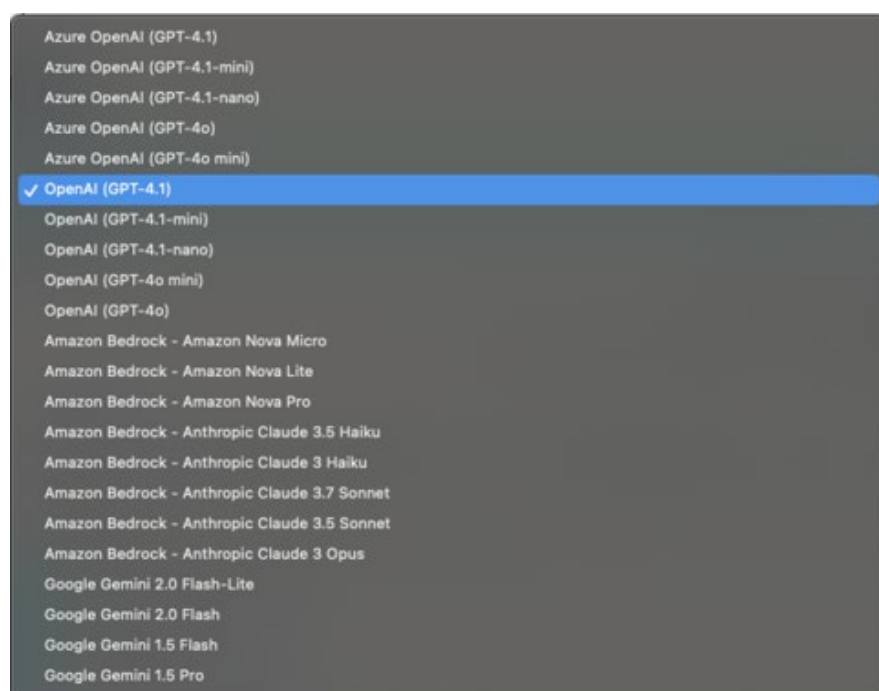
SORACOM Flux は、デバイスから送信されたセンサーデータやカメラから送信された画像に対して、ルールを適用し、複数のデータソースや生成 AI を組み合わせて分析/判断し、その結果を IoT デバイスの制御に反映させる IoT アプリケーションをブラウザ上の操作で構築できます。

サービスの詳細、料金プラン、具体的な利用方法についてはウェブサイトをご覧ください。

<IoT アプリケーション構築時の画面イメージ>



<利用する生成 AI モデルをプルダウンから選択>



ウェブサイト

<https://soracom.jp/services/flux/>

ユーザーガイド

<https://users.soracom.io/ja-jp/docs/flux/>

ソラコムについて

IoT プラットフォーム SORACOM は、世界 180 以上の国と地域でつながる IoT 通信を軸に、IoT を活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供しています。製造、エネルギー、決済などの産業 DX から、イノベーティブなスタートアップ、農業や防災など持続可能な地域社会を支える取り組みに至るまで、さまざまな業界・規模のお客様にご活用いただいています。

ソラコムコーポレートサイト <https://soracom.com>

本ニュースに関するお問い合わせ

株式会社ソラコム 広報 田淵

pr@soracom.jp